

筋弛緩回復剤

スガマデクスナトリウム注射液

投与量換算表

 **NIPRO**

スガマデクス 静注液 200mg 「ニプロ」
Sugammadex Intravenous **500mg**

スガマデクス 静注液 200mg シリンジ 「ニプロ」
Sugammadex Intravenous Syringes



処方箋医薬品 (注意 - 医師等の処方箋により使用すること)

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」を含む注意事項等情報等の詳細は、
電子添文をご参照ください。

製造販売元
(資料請求先)

ニプロ株式会社

大阪府摂津市千里丘新町3番26号
<https://www.nipro.co.jp/>

2024年5月作成 (TT)
[審2402157534]

スガマデクス 投与量換算表

投与薬液量 (mL)

200mgバイアルの場合  …1バイアル  …2バイアル  …3バイアル以上

200mgシリンジの場合  …1シリンジ  …2シリンジ  …3シリンジ以上

体重		10kg	20kg	30kg	40kg	50kg	60kg	70kg	80kg	90kg	100kg
浅い筋弛緩からの回復	2mg/kg	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0	1.2	1.4	1.6	1.8	2.0
深い筋弛緩からの回復	4mg/kg	0.4	0.8	1.2	1.6	2.0	2.4	2.8	3.2	3.6	4.0
緊急時の回復	16mg/kg	1.6	3.2	4.8	6.4	8.0	9.6	11.2	12.8	14.4	16.0

■用法・用量

通常、成人にはスガマデクスとして、浅い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいて四連(TOF)刺激による2回目の収縮反応(T_2)の再出現を確認した後)では1回2mg/kgを、深い筋弛緩状態（筋弛緩モニターにおいてポスト・テタニック・カウント(PTC)刺激による1~2回の単収縮反応(1-2PTC)の出現を確認した後)では1回4mg/kgを静脈内投与する。また、ロクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合、通常、成人にはスガマデクスとして、ロクロニウム臭化物投与3分後を目安に1回16mg/kgを静脈内投与する。

■用法・用量に関連する注意

- 筋弛緩モニターによる確認ができない場合は、十分な自発呼吸の発現を確認した後はスガマデクスとして2mg/kgを投与すること。十分な自発呼吸の発現を確認する前のロクロニウム臭化物による筋弛緩に対してはスガマデクスとして4mg/kgを投与するが、筋弛緩状態からの回復が遅延することがあるため、患者の状態を十分に観察すること。なお、筋弛緩モニターによる確認ができない場合の自発呼吸の発現を確認する前のベクロニウム臭化物による筋弛緩に対する本剤の有効性及び安全性は確立されていない。
- ベクロニウム臭化物の挿管用量投与直後に緊急に筋弛緩状態からの回復を必要とする場合の本剤の有効性及び安全性は確立していない。